

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

負債の動態に関する比較民族誌的研究

2021 年度第 2 回研究会(通算第 5 回目)

日時:2021 年 8 月 10 日 13:00~18:30

場所:Zoom によるオンライン研究会

使用言語:日本語

共催:AA 研共同利用・共同研究課題「負債の動態に関する比較民族誌的研究」,科研費(基盤 B)

「負債の動態をめぐる比較民族誌的研究:アジア・アフリカ・オセアニア農村社会を中心に」(研究

代表者:佐久間寛(明治大学) 課題番号:19H01388)

13:00~14:30

丸山淳子(津田塾大学)

「分配と負い目:セントラル・カラハリ地域の狩猟採集民グイ・ガナの事例から」

14:40~16:10

小川さやか(立命館大学)

「ネイバーフッドエコノミーと負債のゆくえ——東アフリカの事例から」

16:20~17:50

山田実季(京都大学大学院)

「負債と救済—現代タイにおける新興寺院を事例に」

18:00~18:30

総合討論、打ち合わせ

概要

2021 年度第 2 回研究会を上記の日時およびスケジュールのもと実施した。緊急事態宣言下の状況に鑑み Zoom によるオンライン方式を採用した。20 名が参加した。本研究会では、アフリカ地域の研究者が狩猟採集社会における分配と負い目について、またインフォーマルビジネスにおける時間や機会のシェアリングについての研究発表を行った。アジア地域を対象とする研究者はタイの仏教寺院を事例に宗教人類学的負債論の研究発表を行った。司会は佐久間が務めた。各報告の概要は下記の通りである。

(林)

「分配と負い目：セントラル・カラハリ地域の狩猟採集民グイ・ガナの事例から」

丸山淳子(津田塾大学)

南部アフリカの狩猟採集民として知られるグイ/ガナを事例に、食物分配(シェアリング)と負い目について考察した。狩猟採集社会に特徴的にみられる食物分配は、「当然のこと」として実施されるもので、返礼が期待されず、負い目の返済のためになされるものではないと指摘されてきた。本発表では、開発政策のもとで定住化・集住化の進む新しい状況ならでは食物分配のありようを分析することによって、こうした見方を再検討することを目指した。これまでのフィールドワークによって得られた資料を分析し、人々が過去の分配経験をよく記憶していること、また相互に分配しあうことを理想としていることから、食物分配が、その場限りではない長期的な社会関係を生む可能性があること、しかし同時に与え手と受け手の自発性が細部にわたるまで重視され、常に分配が成立するわけではないことなどを論じた。

(丸山)

「ネイバーフッドエコノミーと負債のゆくえ——東アフリカの事例から」

小川さやか(立命館大学)

タンザニアの商人は、しばしばツケの代金や貸したモノ、贈与や支援の見返りを自身が必要になるまで放置しておくことを「人生の保険」などと肯定的に語る。本報告では、何か月、時には何年も放置されている「借り」を通じて築かれる「人生の保険」を、「分人的なシェア」と比較しながら検討したうえで、それがどのような論理で成り立っているのかを「モノや支援の贈与」と「時間や機会の贈与交換」という贈与の二重性に着目して考察した。それを通じて現代的なシェアリング経済の二つの展開、すなわちプラットフォーム協同組合主義のような「持続的な負い目」を基盤に新たな経済社会のあり方と、テクノロジーによって「負い目を払拭する」自動化された社会のあり方のいずれとも異なる、すでにシェアされた社会を遡行的に構築する方途を検討した。

(小川)

「負債と救済—現代タイにおける新興寺院を事例に」

山田実季(京都大学大学院)

上座仏教における出家は、世俗の水平的な諸経済システムや社会関係からの離脱をめざすことが重要な理念に据えられている。この超俗性ゆえに、寺院や出家者は功德(救済)の源泉とみなされ、在家者から多くの布施を惹きつける。本発表では、仏教寺院のこうした経済構造に、グレーバ

一(『負債論』2016)がみてとるような<コミュニズムと資本主義的経済>の緊張関係のありようを現代タイにおける新興寺院を事例に検討した。これについて、<功德と貨幣>の多様な位相に注目しながら本発表が示したのは、寺院経済における布施／労働システムが、資本主義的経済システムと不可分に結びつきながら展開しつつも、寺院独自の制度(ex. 「功德の領収書」を介した交換)や倫理(ex. 労働の功德、貸し借り関係を無化する功德の論理)を実現している点である。これを通して本発表では、「数量化されうる功德」(カネによる功德)と「数量化されえない功德」(労働による功德)とのあいだを慎重に利用した寺院経済のあり方を示した。

(山田)